

国語 試験問題

二月一日実施

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、問題は余白をふくめ、十八ページにわたっています。
- 三、試験時間は五十分間です。
- 四、答えはすべて解答用紙の決められた欄らんに記入しなさい。

京華中学校

受験番号

氏名

余白

問題は次のページから始まります。

余白

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

星川小学校では毎年おこなわ大会が行われているが、さくらがいる五年二組では、左足にハンディをもつ双葉が「おこなわ大会には出ません」と宣言したことで、学級会が行われていた。議題は「おこなわ大会に双葉も楽しく参加できるようにみんなで新しいルールを作る」こと。しかし議論の結論はなかなか出ず、学級会の時間は終わりのチャームが鳴ってしまった。

じりじりしながら、ふとももの上の自分の手を見つめた。ぎゅつとこぶしをにぎっている手。この手を上にあげれば、発言できる。

せっかく全員に機会があったのに……。

おこなわ大会について、ひとりひとり思ったことをいっちゃおうってなったときはチャンスだと思った。自分の意見をみんなの前でいうチャンス。

自分から手をあげて発言するのはできないけど、順番がまわってきて発言するのなら、いいやすい。

なのに、自分の番になったら、急におじけづいてしまったんだ。

わたしの思いなんて、たいしたことないような気がして。

わたしがいわなくても、舞花とか森くんとか藤木くんとか、しっかりしている子が発言するはずだから。

いいわけは、たくさん思いつく。

その一方で、だめだよって感じるもうひとりのわたしもいた。

親友の双葉のことでしょ？

1 わたしがいわなきやいけないことも、あるんじゃないの？

そのふたつの思いが、せめぎあっている、ずっと。

週末に、おこなわ大会のことを、おかあさんとおとうさんと話した。保育園のころから知っている双葉が学校を休んでいて知って、とても心配していたから。

いろいろ聞かれて、これまでのことを説明した。すると、おかあさんはうーんと考えこみ、なんとなく感じてついて

いたテレビをけし、テーブルに姿勢をただしてすわった。

「それは、むずかしい問題ね。でも、うーん、双葉ちゃん、カウント係か……？」

「双葉自身、それがいいって、いうし」

「それはやつぱり、遠慮えんりょしてるのよ。でもさ、それだったら、これから、双葉ちゃんは学校行事にでるとき、自分が参加することが、迷惑めいわくか、迷惑じゃないか、いちいち考えなきゃならないのかな？ それって、へんじやない？」

「えっ？」と、わたしは聞き返した。そんなふう考えたことはなかったから、すぐには意味がわからない。すると、おとうさんもわりこんできた。

「そうそう。迷惑かけるから跳とばないっていうけど、迷惑をかけないで生きている人なんていないよ。迷惑をかけてないと思ってる人だって、どこかでだれかにフオーとローされていたりするもんだ」

おとうさんは、ビールをひとくち飲み、思いだしたように続ける。

「それに、双葉ちゃんは、小さいころからチャレンジジャーだったじゃん。『やるやる、うちにもやらせて』とかいってさ」
おかあさんも「そうそう」と、うなずいた。

「自転車も、キックボードもやりたがった。失敗も多かったけど、楽しそうだったよ。次はきつとできる、とかいって」

「うん、双葉ちゃんの、チャレンジしていく気持ち、なくしてほしくないな。これから先、受験も就職も競争みたいなものだし、社会に出ればもつとそういうことも増えていく……。でも、小学校の行事の思い出って、競争とは別でもよくないか？ うまい人だけがやるんじゃないかって、みんなで作る楽しさもあるって思う」

おかあさんは、わたしのほうを見た。

「双葉ちゃんのことだけじゃないのよ。さくらもそう。やってみたいことがあったら、挑ちようせん戦してよね。失敗したら迷惑をかけるからって、あきらめないでほしいな……」

わたしは思わずうなずいたけど、2すべて納得なととくしたわけではなかった。回数を競きまう競技であるかぎり、双葉は気にするだろ
うし、その気持ちもわかるから。でも、

『迷惑になるからやめる』

『迷惑って、なんだろう』

『双葉はみんなとやるのが好きなチャレンジジャーだった』

あのとときから、そんな言葉が頭の中でぐるぐるまわって、はなれない。

わたしは双葉に、遠慮してあきらめる人になってほしくない。

自分たちが双葉を、あきらめる人にしてしまうのも、絶対にいやだ。

あと、わたしも、変わりたかった。

自分の意見をいえる人に。

おとなしいさくら、から、いいたいことはいえるさくらに……。

そう思ったはずなのに、意見をいう機会をパスしちゃったんだ。

あーあ。わたしってダメだな。やっぱり変わらない。

終わりのチャイムも鳴ってしまった。

タケノコ先生がいう。

「今日の学級会は、みんなの気持ちを聞けてよかったと思う。結論はでなかったので、後日、時間をもうけて、続きを考えよう。最初に三浦さんが提案してくれた新しいルールづくりについても、決められてないからな」

「うそーっ、学級会、またやるの？」

廉が A をむいている。

「ああ、先生はこの学級会はとても大事なことを話し合っていると思うんだ。最後に、今日、これだけはいっておきたいって人？」

3 タケノコ先生は、自分の右手もあげ、教室を見まわした。

わたしの胸は、はれつしそうにドキドキした。

今だ。今しかない。

気がつくとも、手をあげていた。

タケノコ先生は気づかない。やっぱりおろそうと思ったときだ。

「あ、小田島さん、手をあげてる」

吉川さんが気づいて、みんながこつちを見る。三十人分の視線が体をさすように感じる。

タケノコ先生も「お、なにかあるか？」とこつちを見た。

わたしはお腹なかに力を入れて、立ちあがった。

「わたしは、最初、双葉には、カウント係をしてほしいと思っていました。でも、そのとき考えが変わりました。今は、少しでもいいから跳んでほしいと思います。それは、その……」

Bが熱くなるのを感じた。きつと顔もまっ赤かだろう。でも、これはいわなくちゃ。

「双葉は『自分が出ると、迷惑になるから跳びたくない』っていいましたが、わたしは迷惑だとは思いません。ほかの人の意見を聞いても、だれも迷惑だって、いっていませんでした。もし、最後まで跳ぶのがつらいなら、一回とか二回とか自分の目標の回数とか……。わたしは双葉に『自分が入ると迷惑になる』って思ってほしくないです」

いい終わって、どっと背中を汗あせがながれた。あわてて席につき、うつむいた。はずかしくて、みんなどんな顔してるのか、見るのがこわい。

ガタツと音がした。

⁴「それよ、それ。あたしがいいいたかったのも、それ」

舞花が立ちあがって、興奮したように手を上下にふっていた。あまりの舞花の勢いに、まわりの人が驚おどろいている。

「だったら、小田島さんの意見は、最初に出たルールでは③に近いのかな。ハンデイがあつたりにながてな人は、自分の目標だけ跳ぶってことかな？」

タケノコ先生に聞かれて、わたしはうなづく。

新しいルール③は自分の目標の数を跳び、あとは列から少しはなれて応援おうえんにまわってもよい、ってやつだ。

「賛成です」

声がしたのでそつちを見たら、貴大だった。さつき、廉をかばった人。bわたしのほうを見て、にこつ、と笑う。

「それ、いいかも」

「うん。それならやりやすいかも」

小さくそんな声もれる。

「ええー、やっぱ、みんな跳ぶのかよ」

廉が、がくつ、という感じで机につつぶした。

舞花がさつと手をあげた。

「跳ぶのが得意じゃない人も、できるだけプレッシャーを感じないようにします。そういう練習を、体育委員で考えるから」
そういつて、舞花は陽太のほうを見る。

陽太は、「えっ、体育委員で？」とCをひきつらせてる。

「じゃ、ルール③でうまくいくか、明日からやってみる、ってのは？ 実際にやらないと、わからないからさ」
森くんのこの意見に反対はでなかった。タケノコ先生もうなずいてる。

わたしはそつと、双葉のほうを見た。

双葉はしんみりような顔をしていた。でも、わたしの視線に気づくと、にこつと笑ってくれた。

(赤羽じゅんこ『おこなわ跳びません』による)

1. A C にあてはまる言葉として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア 顔 イ 目 ウ 耳 エ 首 オ 胸

2. 線部 a、d を説明した言葉の組み合わせとして最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア	a	困惑	b	安堵	c	緊張	d	喜び
イ	a	面倒	b	共感	c	不満	d	賛同
ウ	a	嫌悪	b	感謝	c	消極	d	同意
エ	a	反感	b	期待	c	怒り	d	安心

3. 線部 1 に「そのふたつの思いが、せめぎあっている」とありますが、「ふたつの思い」の内容を六十字以内で説明しなさい。

4. ———線部2に「すべて納得したわけではなかった」とありますが、このときのさくらの説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 学校行事への参加を迷惑かどうかで決めるべきではなく、挑戦してみたかどうかで決めるべきであるという両親の言いは理解したが、双葉に対して具体的に何をすべきかわからずにいる。

イ 他人への迷惑を考えて行事への参加を諦めるのではなく、やりたいことだけにチャレンジしていくことが大切であるという両親の言いは理解したが、双葉がその考えに納得するかがわからずにいる。

ウ 物事に挑戦するときは他者への迷惑を考えずに、やってみたい気持ちを大切に楽しくむほうが良いという両親の言いは理解したが、参加する行事がおこなわ大会であることがひっかかっている。

エ 迷惑をかけずに生きている人はおらず、みんな挑戦して楽しむことが何より大切であるという両親の言いは理解したが、双葉が他者からの評価を気にせず楽しめるかがひっかかっている。

5. ———線部3に「わたしの胸は、はれつしそうにドキドキした」とありますが、このときのさくらの気持ちとして、あてはまらないものを一つ選び、符号で答えなさい。

ア クラスメイトの前で積極的に自分の意見を言うことに対して緊張している。

イ このままでは自分の意見を伝えられずに議論が終わってしまうため意見を言う決意をしている。

ウ 自分が双葉のために提案する意見がクラスメイトに否定されないか不安をいだいている。

エ ふだん発言していない自分が手をあげて先生に気づいてもらえるか心配している。

6. ———線部4に「舞花が立ちあがって、興奮したように手を上下にふっていた」とありますが、その理由として最も
適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア さくらが跳ぶのが難しい子たちは目標を決めて跳ぶという提案をし、双葉が跳ぶことを迷惑であると思っている人は
いないという、自分が言うのをためらっていたことを代弁してくれたから。

イ さくらがハンディを持つ双葉は跳ぶ回数を決めて参加するという提案をし、双葉に自分自身を迷惑な存在であると思
ってほしくないという、自分が伝えたかったことを発言してくれたから。

ウ さくらが足が不自由な子はみんなで決めた回数を跳ぶという提案をし、全員で行事を楽しむために少しでもいいから
跳んでほしいという、自分が言い出せなかったことを言ってくれたから。

エ さくらがハンディを持つ双葉だけは目標の回数だけ参加するという提案をし、双葉が参加することは迷惑なことでは
ないという、みんなが考えていた意見を代わりに語ってくれたから。

7. ———線部5に「わたしの視線に気づくと、にこっと笑ってくれた」とありますが、この場面での双葉とさくらの説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 双葉は自分のために行われたクラスメイトの話し合いを静かに聞いていたが、さくらが自分への思いを語ってくれたため嬉しく思っている。一方でさくらは、双葉が意見をどのように受け止めているか心配だったが、明るい双葉の表情を見て安心している。

イ 双葉は、自分の行事参加についての話し合いを不安な気持ちで聞いていたが、さくらが自分の気持ちを代弁するような発言をしてくれたことに感謝している。一方でさくらは、双葉が嫌な気分になっていないか気にしていたが、双葉の笑顔を見てほっとしている。

ウ 双葉はクラスメイト全員が話し合っているのをおとなしく聞いていたが、さくらが自分のためのルールと自分への本音を勇気を出して発言してくれたことに喜びを感じている。一方でさくらは、双葉が他にも言いたいことがないか気になっていたが、双葉の満足げな顔を見て一安心している。

エ 双葉は自分のハンディについての話し合いをうしろめたな気持ちで聞いていたが、さくらが周囲の人々を説得してくれて感動している。一方でさくらは、双葉のやりたいことに挑戦する心を取り戻せたか不安だったが、双葉の嬉しそうな顔を見て安堵している。

8. この文章の表現の特徴として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 実際の時系列に沿って文章を描くことで、議論の中で変化する登場人物の気持ちの変化が理解しやすくなっている。

イ 会話文中に「……」を多用することで、登場人物のいっているマイナスの感情を読者が想像しやすくなっている。

ウ 複数の人物の視点から双葉の言動を描くことで、双葉がさくらのために変わっていく様子が理解しやすくなっている。

エ 「ぐるぐる」や「ぎゅっと」などの音に例えた表現を用いることで、登場人物の気持ちが想像しやすくなっている。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「なぜ、植物は、動きまわれるように進化しなかったのですか」と聞かれることがあります。でも、もし植物たちが、自分たちについて、このような疑問をもたれていると知ったなら、たいへん残念な思いをするでしょう。

たしかに、毎日の生活で、動物が動きまわるのに対し、植物たちは動きまわりません。また、植物たちは、発芽した場所から動きまわることなく、生涯を終えます。そのため、私たちは、「動物は動きまわることができるけれども、植物は動きまわることができない」と表現することもあります。

「なぜ、植物は、動きまわれるように進化しなかったのですか」との疑問や「植物は動きまわることができない」との表現の裏には、「動きまわれない動物が、動きまわれない植物より、すぐれた生きものである」という意識があるように思われます。

でも、植物たちは、「動物のように、動きまわりたい」と思っているのでしょうか。もし、ほんとうに、そのように思っているのに、動きまわることができないのなら、植物たちは、かわいそうな生きものということになります。

しかし、植物たちが自分の気持ちを語ることができたら、「植物たちが『動きまわりたい』と思っているというのは、とんでもない誤解です。私たちは、『動きまわりたい』と書いていません」と言うでしょう。

それどころか、植物たちは、『動きまわることができない』のではなく、『動きまわる必要がない』のです」と言うはず。植物たちがそのように言えば、間違いなく、反論があるでしょう。

「植物たちは、もともと手も足もなく、根を土の中に生やしており、実際に動きまわろうとしても、動きまわることはできない。だから、『動きまわる必要がない』というのは、動きまわることができない植物たちの側に立った負け惜しみだ」というものです。

ところが、「ほんとうに植物たちが『動きまわる必要がない』のか、あるいは、『動きまわることができない』のか」は、意外とわかりやすく吟味し、検証することができます。A、動物は意味もなくウロウロと動きまわるのではないからです。

「なぜ、動物が動きまわるのか」と理由を考え、そのそれぞれの局面で、「植物たちは、どうしているか」を考えてみてください。そうすれば、「動きまわることができないために、植物たちは、不自由な生活を強いられている」のか、あるいは、

「植物たちは、ほんとうに動きまわる必要がない」のかが見えてきます。ですから、まず、動物がウロウロと動きまわる理由を考えましょう。

動物が動きまわるもつとも大切な理由の一つは、「自分が生きるために、食べものを得るため」です。日々の生命活動を営んで、命を保ち、成長していくためには、栄養とエネルギーが必要です。

そのため、私たち人間を含め、動物は食べものを食べることで、命を保ち、成長していくには、栄養とエネルギーが必要です。植物たちも動物と同じように、生命活動を行い、成長していくには、栄養とエネルギーが必要です。

B、植物たちは、食べものを食べる姿を見せません。植物たちが食べる姿を見ることのない昔の人は、「なぜ、植物は何も食べずにすくすく育つのだろう」と不思議に思っていました。古代ギリシャのアリストテレスは、「植物たちは、土の中に隠れた根で、食べものを食べている」と説明しました。

一七世紀の半ばには、ベルギーの医師、ファン・ヘルモントが、「植物は、根で何を食べているのか」を知ろうと、詳しく調べました。でも、水を吸収して育っていること以外には、何を食べているかは見つかりませんでした。

見つかるはずはないのです。植物は、私たちが食べているようなものを食べていないからです。植物が食べものを求めて動きまわらないのは、植物たちは、葉っぱで自分の食べものをつくることができるからなのです。

植物たちが食べものを食べる姿を見せないために、「植物たちは、食べものを食べたくないのか」との疑問を抱かれることがあります。しかし、これは、まったく的外れのもので、植物たちが食べものを食べる姿を見せないのも、植物たちが食べものを求めて動きまわらないのも、植物たちは、葉っぱで自分の食べものをつくることのできるからなのです。

植物たちは、根から吸った。＼水＼と、葉っぱが吸収する。＼二酸化炭素＼を材料にして、太陽の＼光＼を使って、自分の力で、食べものをつくります。この反応は、「光合成」といわれます。この反応により、植物たちは、生命活動を行い、成長していくためのエネルギーのもととなるデンプンをつくりだしているのです。

デンプンは、私たち人間が主食としている、お米、コムギ、トウモロコシの主な成分です。植物たちは、それを自分でつくるので、食べものを食べる必要はありません。また、食べものを探し求めてウロウロと動きまわる必要がありません。

植物たちには、**「」**という思いがあるのでしよう。そして、実際に、食べものを自分でつくりだす力があるので、だからこそ、芽生えた場所から、移動することなく、生涯を過ごすことができるのです。

植物たちは、食べものを探し求めて動きまわる動物を見て、「動きまわらなければ食べものにありつけない、**Y**かわいそう

な生き物だ」と思っているかもしれません。大げさに言えば、植物たちは、動物を憐れんでいるということになります。

植物たちは、自分たちの食べものをつくるだけではありません。私たちが毎日食べるお米や、野菜、くだものなどは、植物が光合成でつくるものです。もちろん、私たちはお肉も食べますが、「そのお肉が、どのようにしてできたのか」をたどっていくと、植物たちが光合成でつくったものに行きつきます。

私たち人間だけではありません。地球上のすべての動物は、植物たちが光合成でつくるものを食べて生きています。植物たちは、地球上のすべての動物の食糧しょくりょうを賄まかっているのです。

光合成に必要な、水や二酸化炭素、太陽の光は、地球上にいくらでもあります。C3、とくにお金はかからず、安全なものばかりです。もし私たちが、工場に機械を並べて光合成をすることができれば、世界中の人々が食べものの不足なやに悩むことはないでしょう。

私たち人間の科学は、すごく進歩しています。だから、「小さな葉っぱがすることぐらい、真似まねできる」と思われがちです。ところが、私たちは、光合成を真似することはできません。私たちが人間の科学は、たった一枚の小さな葉っぱにも及およんでいないのです。

植物たちも、そんなに簡単に、光合成をしているわけではありません。光合成をするためには、その材料として、水と二酸化炭素が必要です。そして、反応のエネルギーとして、光が必要です。

植物たちは、動きまわることなく、自給自足で、これらを調達して、やり遂とげなければなりません。そのための、植物たちの思いと努力は、生半可なものではないでしょう。「自分の食べものは、自分でつくる」という強い思いをもっていないければなりません。

植物たちは、光合成に必要な光を受けようとして、背丈せたいを伸ばし、葉っぱの向きを変えます。また、光合成に必要な水を集めるために、根を伸ばし、水を葉っぱに運びます。空気中に存在する二酸化炭素を葉っぱに吸収しなければなりません。

植物たちは、 という強い気持ちで、その思いを遂げるための努力をしています。

(田中修『植物たちに心はあるのか』による)

1. A C にあてはまる言葉として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア しかし イ たとえば ウ そして エ なぜなら

2. ——— 線部1に「たいへん残念な思い」とありますが、どのようなことを残念だと思っているのですか。最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 植物自身が動かない理由をわかっていないのに、人間に的外れな疑問を持たれていること。

イ 植物は動く必要がないのに、人間から動けない劣おとった生き物だと思われること。

ウ 動きまわることはできるのに、人間から一方的に動けないと決めつけられていること。

エ 動きまわりたいとは思っていないのに、人間に見当けんとう違いな議論をされていること。

3. ——— 線部2に「動物が動きまわるのに対し、植物たちは動きまわりません」とありますが、これについて説明した次の文章の I IV にあてはまる言葉を、指定字数でそれぞれ抜き出しなさい。

生き物が I (九字) ためには栄養とエネルギーが必要である。動物は、II (八字) ことで栄養とエネルギーを体内に取りとり込んでいるため、その素材を求めて動きまわらなければならない。一方で植物は、自然にあるものを材料にして III (十五字) 力を持っている。そのため、植物は IV (四字) 地点から動きまわることはない。

4. ———線部3「私たち人間の科学は、たった一枚の小さな葉っぱにも及んでいない」とはどういうことですか。最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 人間の科学はたしかに優^{すぐ}れてはいるが、地球上の動物たちの食べものを、自分たちの力だけで一から生み出せないという事。

イ 人間の科学も発展してはいるが、全ての人間を養うことができる食料を、大量のお金をかけずに生み出せないという事。

ウ 人間の科学は進化し続けているが、植物の光合成を再現することはできないため、安全に食べものを生産できないという事。

エ 人間の科学は格段に進歩しているが、栄養を生み出す光合成の仕組みを理解できずにいるため、光合成を再現できないという事。

5. 本文中の に共通してあてはまる言葉として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 自分の食べものは、人の世話になりたくない

イ 食べものを食べる姿を、人に見せたくない

ウ 動きまわらないで、効率的に栄養を取りたい

エ 光合成をするために、必要な材料を自分で集めたい

6.

線部 X 「かわいいそうな生きもの」・ Y 「かわいいそうな生き物」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) X・Yはそれぞれ何から何へ向けられた表現ですか。適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア 植物から動物へ

イ 植物から人間へ

ウ 動物から植物へ

エ 動物から人間へ

オ 人間から植物へ

カ 人間から動物へ

(2) どのような点が「かわいいそう」なのですか。それぞれ四十字以内で答えなさい。

三、次の①～⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 正夢を見る。
- ② 待ちに待った朗報だ。
- ③ 子どもが戸外で走り回っている。
- ④ 鋼材は加工しやすい。
- ⑤ 布を織る。

四、次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 過去問にチャクシユする。
- ② 将来に備えてチヨキンする。
- ③ 大きなタワラを担ぐ。
- ④ 思い出を心にキザむ。
- ⑤ 私見をノべる。

余白